

人権コラム 心、豊かに

◆ 我が子の幸せとは

バレンタインデーは近年、日本でも親しい人や大切な人などにチョコレートを贈る行事として広まっています。諸説ありますが、3世紀後半頃、遠征する兵士の士気の低下を防ぐために結婚を禁じた当時のローマ皇帝に反対したバレンタイン司祭が処刑された日とされる2月14日がバレンタインデーの由来であるといわれています。このように、本人の意思と関係なく結婚が許されないことは現代の日本でも起きており、その中には自分ではどうすることもできず、周囲の人に結婚を反対されている場合があります。

大分県が平成31年に実施した「人権に関する県民意識調査」の中で「あなたは、同和問題（部落差別問題）として、現在、どのような問題が起きていると思いますか」という設問に対し、「結婚問題で周囲に反対されること」が46%と最も多くなっており、前回の調査（平成26年実施）からは2.5%減少しているものの、いまだ部落差別の問題として結婚差別があると考えられています。

また、同調査の「あなたのお子さんが同和地区の人と結婚するとしたら、あなたはどうしますか」という設問に対しては、「同和地区の人かどうかは関係ない、そのことで反対などしない」が40.8%と最も多くなっています。一方、「絶対に反対」が2.4%、「反対するが、やむをえない」が10%、「同和地区でない方がよいが、反対しない」が21%となっており、反対はしないものの、積極的に賛成ではない意見を含めると約3割が、自分の子供が被差別部落の人との結婚に消極的であると考えられます。

結婚は人生の中でも大きな節目の1つです。自分の子供が将来幸せに暮らせるか、相手は信頼できる人なのか等心配になることも多いでしょう。そんなときこそ偏見による誤った判断にとらわれるのではなく、正しい判断をすることが、本当の我が子の幸せにつながるのではないのでしょうか。